

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



公立南丹病院

Nantan General Hospital

Vol.20

2014.1
Winter
新春号



七色の木(京丹波町^{ほどす}仏住)

写真提供 京丹波町観光協会

七色の木は、文字通り一本のカツラの木にカエデ、カヤ、ケヤキ、スギ、フジ、イロハモミジの6種類の木が共生している全国的にも珍しい木で、京丹波町の天然記念物に指定されています。幹の周囲が7.35m、高さが11mもある巨木で、京都の自然200選のひとつでもあります。

臨床研修指定病院 京都府がん診療連携病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター DMAT指定医療機関

公立南丹病院

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
TEL 0771-42-2510 (代) FAX 0771-42-2096
<http://www.nantanhosp.or.jp>





公立南丹病院広報誌

病院の理念

公立南丹病院は、この地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院である。

このことを病院職員は深く認識し、患者さんの権利を守り、患者さん中心の医療を行い、患者さんから愛され信頼される病院をめざす。

2014.1

Vol.20

新春号

CONTENTS

- 新年を迎えて①
- 赴任のごあいさつ②
- 診療科紹介[内科系]-循環器内科...③
- 診療科紹介[外科系]-小児外科④
- 公立南丹看護専門学校⑤
- 在宅医療センター⑥
- DMAT活動⑦
- 救急部のご紹介⑦
- 吸入薬について⑦
- 専門資格を持った看護師⑧
- 南丹船井自衛消防連絡協議会
消火訓練大会 W入賞!!⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方⑨
 - 山田医院
 - さとう医院
- 病院ボランティア⑩
- 平成25年度 第3回緩和ケア講演会
.....⑪
- 看護師・助産師募集⑪
- 編集後記⑪

新年を迎えて

院長 かじた 梶田 よしひろ 芳弘



新年おめでとうございます。昨年末は、気温の変動が大きく厳しい寒さにみまわれました。今年の干支は馬です。草原を颯爽と走る姿が目には浮かびます。本年度の皆様方の健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

以前は高齢者の死因に、肺炎やインフルエンザなどの感染症が、かなりの部分を占めていましたが、有効なワクチンの接種により減少傾向が続いています。そして感染症に代わり、がんが昭和56年以後死因の首位となりました。

以前はがんといえば不治の病とされていましたが、最近では治療により完治するがんも多くあります。また無治療でも長期生存するがんもあり、このため「がんもどき」という言葉もあります。加えて本物のがんでも治療は不要ということを主旨とした書物が出版されベストセラーとなっています。確かにがんでも、個人個人で多彩な特徴があり治療が不要な場合もありますが、殆どのがん関連疾患で何らかの治療が必要であると私は考えています。主治医やセカンドオピニオンの話、国立がんセンターなど日本を代表するがん専門治療施設のホームページを参考にして情報を集め、患者さんとご家族で現状を理解し、十分話し合い、治療法を選択することが重要です。

公立南丹病院では、従来の外科手術療法や化学療法に加え、平成27年4月からの放射線治療機器の導入の準備を進めています。今後とも南丹医療圏でがんの治療が完結できるよう全力で頑張っ参ります。

公立南丹病院の使命は地域住民の生命と健康を守ることです。毎回の広報誌でもお願いしていますが、この地域で働くことを希望される看護師や、免許を持ちながら就労されていない看護師のご家族やお知り合いがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介のほどお願い申し上げます。

公立南丹病院は、職員一同協力し、この地域で救急医療、がん治療など高度医療、地域包括医療の最終拠点病院として充実発展を進めて参ります。今後とも皆様方のご支援をお願いする次第です。



放射線治療機器(リニアック) イメージ写真

赴任のごあいさつ



整形外科医員

まさお まきお
榎尾 智

平成25年10月から整形外科に赴任させていただきました。皆様のお役に立てるようにがんばります。よろしくお願い致します。

整形外科部長 ふじわら やすひろ
藤原 靖大

10月から小牧伸太郎先生が愛生会山科病院へ転勤となり、その後任として同じく愛生会山科病院から榎尾智先生が当院へ赴任されました。卒業大学は違いますが、卒業年度は小牧先生と同期で、しかも小牧先生とは大学浪人時代からの親友だそうです。

当院では小倉卓副院長の下、脊椎外科専門医を目指すために頑張る予定ですが、その前に整形外科一般の外傷についても造詣を深めたいとのことですので、救急室で困ったことがあれば気軽に声をかけてあげてください。

院内では循環器内科加藤先生そっくりのニセモノとして徘徊しているようですので、皆さんダメされないようにご注意ください(笑)。



脳神経外科医員

おがわ たかひろ
小川 隆弘

早いもので、10月に赴任してから、はや3ヶ月が経ちました。

病棟や他科の諸先生方、外来、手術室、リハビリ、技師さん、事務方の皆様方には心優しく受け入れていただき、非常に居心地良い環境で働かせていただいております。

この度、京都第二赤十字病院から赴任してきましたが、公立南丹病院は京都第二赤十字病院と同様に地域の中核病院である、と認識しております。

ただ、京都第二赤十字病院と違って、公立南丹病院の場合は、近隣の脳外科となると、洛西シミズ病院や舞鶴医療センターと、かなり遠方になってしまいます。この点は、当科がこの地域にとって、替えの効かない重要な科になると思われますので、地域への貢献の重要性和責任の重さを自覚しながら、日々の医療に取り組んでいる次第です。皆様には多々ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、気軽にお声かけいただき、御慈愛いただきますよう、今後とも宜しくお願い申し上げます。

統括部長兼脳神経外科部長 えびす としひこ
恵飛須 俊彦

10月から高道美智子先生に代わり京都第二赤十字病院から小川隆弘先生が赴任されました。卒業7年目で、この8月に脳神経外科専門医試験に合格され、これから脳神経外科専門医としての脳神経外科診療を期待しています。

平成15年に当院に脳神経外科が開設、脳疾患に対する救急対応がこの医療圏内で可能となり、それに合わせて、脳疾患かどうか来院までわからないような意識消失などの症状を有する救急患者搬入も容易となり、当院への救急車搬入台数は急増、現在は脳神経外科開設前と比較すると2倍の数になっています。今年4月から脳神経疾患、脳卒中診療をさらに効率よく行うことを目的に、脳神経外科と神経内科(4月より脳神経内科に改称)が「科の垣根」を取り払って結集し、「脳神経・脳卒中センター」を開設しました。超高齢化社会を迎え、今後も増加傾向をたどると予想されます脳卒中患者さんの急性期集中治療にあたるとともに、脳卒中の再発防止や発症予防のみならず、脳神経疾患全般にわたり、内科的・外科的診療を総合的に行いますのでよろしくお願いします。



泌尿器科副部長

いわた つよし
岩田 健

平成25年10月15日付で着任しました。京都生まれの京都市育ちで、平成8年に京都府立医大を卒業し、大学附属病院、京都第二赤十字病院、近江八幡総合医療センターなどで臨床経験を積んだ後、平成18年からの3年間はUSAのボルチモアにあるジョンスホプキンス大学で基礎的研究に専念しました。平成21年からは京都府立医大に戻り、主に排尿障害の研究と臨床に携わっております。

副統括部長兼泌尿器科部長 よねだ きみひこ
米田 公彦

山田恭弘先生が京都府立医大に戻ることとなり、その後任として岩田健先生が泌尿器科副部長として勤務することになりました。

10年先輩である私をして、ぜひ一緒に仕事をしてみたいと思わせる後輩の一人であり、京都府立医大大学院や米国のジョンスホプキンス大学で基礎的研究に励み、その業績に対して第3回オルガノン賞を授与されています。その一方で臨床にも精力的に取り組み、泌尿器腹腔鏡技術認定も取得しています。

これから泌尿器科は、私と高羽副部長に岩田副部長を加えた3人で協力体制を堅持し、患者さんならびに院内の方々のお役に立てるように頑張る所存ですので、ご支援のほど宜しくお願い致します。

循環器内科 *Cardiovascular Medicine*

循環器内科部長兼救急部長（内科系） 計良 夏哉^{けいら なつや}

平成25年度の循環器内科のメンバーは辰巳哲也副院長兼循環器内科部長、野村哲矢副部長、浦壁洋太医長、加藤 拓医長、寺田兼輔医員、池亀翔医員、樋口雄亮医員そして筆者の計良夏哉であり、診療科開設以来最多の8名体制で診療を行っています。

入院診療における主な専門診療の領域は、これまでより冠動脈疾患に対する心臓カテーテル検査およびバルン（風船）やステントなどを用いた経皮的冠動脈インターベンション、失神などの症状を伴う徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み、初回急性心不全に対する治療と原因となる心疾患の診断、慢性心不全の急性増悪に対する薬物療法と心臓弁膜症等の手術時期の決定などですが、最近では末梢動脈疾患（下肢閉塞性動脈硬化症）に対するステントなどを用いた血管内治療（カテーテル治療）にも力を入れており治療数が増えています。

外来では月曜日から金曜日まで複数の循環器内科医師が外来診療を行っているほか、救急診療にあっては24時間365日体制で循環器内科医師の誰かが内科当直医師をサポートしており、南丹市、亀岡市、京丹波町の二市一町では唯一いつでもカテーテルができる施設として京都府の「急性心筋梗塞の急性期医療を担う医療機関の基準」を満たしています。

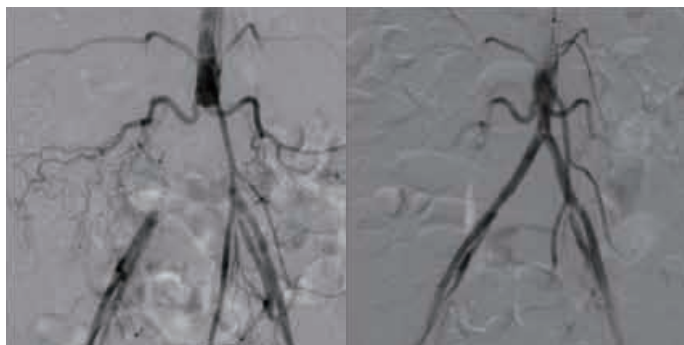
高齢化社会においては症状が乏しくまた非典型的であるために心臓病や末梢動脈疾患に罹っていることに気がつかれない方も増えてきています。循環器疾患においては治療技術の進歩が目覚ましく、かなりの進行



循環器内科のスタッフ

例でも「なんとかなる」時代ですが、それでも早期に診断して治療にあたることが重要です。特に高血圧・糖尿病や喫煙歴のある患者さんにおかれましては、労作時や安静時に発作的に胸部症状がある方は、心臓超音波検査、冠動脈CT検査、心筋シンチ（RI検査）などで冠動脈疾患の診断が、足のしびれや冷感および歩行時の痛みなどがある方は、足と腕の血圧を同時測定する装置やCT検査で末梢動脈疾患の診断することが、外来検査で比較的簡単に可能です。

お気軽に「かかりつけ医」にご相談頂いて、私どもに診断・精査をご用命いただけましたら迅速に対応いたします。



治療前

治療後

両側総腸骨動脈（腹部大動脈から分岐してそれぞれ右足と左足に行く血管）が閉塞した患者さんに対するステントを用いた血管内治療

小児外科

Pediatric Surgery

小児外科部長兼救急部長（外科系） 岩田 譲司 いわた じょうじ

小児の消化器疾患、呼吸器疾患、鼠径ヘルニアや水腫などの一般的な疾患、急性虫垂炎や外傷などの救急疾患、嚥下障害、胃・食道逆流症、排便機能に関する消化管機能評価、胃瘻造設など、新生児から成人まで広く一般消化器外科の診療に携わっております。

小児外科外来は外科外来にて毎週水曜日の午後に診察を行っておりますが、定期予約以外の救急の場合にも随時対応しておりますのでご遠慮なくお問い合わせください。

主な診療内容は鼠径ヘルニア（俗にいう脱腸）とこれに類似する疾患といわれる男児の陰嚢水腫、停留精巣・移動性精巣や女児のNuck水腫、および俗にでべそなどといわれる臍ヘルニアなどがあります。患者さんの年齢や手術の日程などによって異なりますが、一般には1～3日間程度の入院で治療を行っております。

また、一方では重障心身障害（児）者に対する内視鏡的胃瘻造設（PEG）や開腹胃瘻造設、その他の成人疾患の治療も行っており、近隣の亀岡市大井町にある「花ノ木医療福祉センター」などから紹介があります。

日常診療においては小児科と連携して、鼠径ヘルニアとその類縁疾患以外にも下血や慢性便秘、肛門部疾患に対する消化管精査の依頼も多く、注腸検査、大腸内視鏡検査などの消化管検査などにも携わっています。

小児外科診療としては救急医療も含め365日、小児の外科疾患診療には対応している一面マンパワーの限界などにより新生児外科疾患や、周産期医療には充分に対応しきれていない部分があるのも事実で、京都府立医科大学小児外科学教室にバックアップいただいております。

地域の小児科医院とは地域医療連携係を通して、鼠径ヘルニアや急性虫垂炎などの紹介が多く、地域中核病院として南丹医療圏をカバーしています。普段のベッドコントロールのみならず、緊急入院や臨時手術にも快く対応していただける病棟スタッフの皆さんの



ご協力で診療が成立していると感じます。

診療実績としては、年間、鼠径ヘルニアやこれに関連する水腫の手術は20例以上、急性虫垂炎10例以上、精巣固定、その他としては正中頸嚢胞、尿管管遺残、靱帯的腸重積整復、若年性ポリープ切除、漏斗胸の手術など小児特有の疾患が目立ちます。また、急性虫垂炎には腹腔鏡（内視鏡）手術を積極的に取り入れています。

小児外科スタッフは平成26年1月現在、岩田譲司部長（京都府立医大平成元年卒業）と竹内雄毅医員（京都府立医大平成22年卒業）で頑張っています。



鼠径ヘルニアのパンフレット

地域に根差した医療を担う人材の育成

現在、第2病棟の一部が閉鎖されていることをご存知でしょうか。平成18年度の診療報酬改定から続く看護師不足は全国的に絶望的な状況となりました。南丹病院でも、その余波をうけ、一昨年から一部病棟が閉鎖に追い込まれています。南丹病院では、新卒看護師のほとんどは、公立南丹看護専門学校の卒業生で構成されています。

学生実習では、知識不足、経験不足で、患者さんにはご迷惑をかけていると存じます。しかしながら、10年後、20年後には、そんな頼りない学生達が、病院の中心的、指導的な役割を演ずるようになっていくのも事実です。看護師は地域に根差した保健や医療業務を担う大切な人材です。こういった人材は地域で積極的に育てていかない限り南丹地区保健医療の将来はありません。地域の保健医療活動の担い手を育てるために、看護学生の教育に今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。



校長 塚本 賢治
つかもと けんじ



看護基礎実習前の演習
地域の方々にご協力をいただいています



災害看護の講義（2年生）



エントランスホール

在宅医療センター

訪問診療・訪問看護にたずさわって

看護師長 ^{にしむら} 西村 ^{かずこ} 和子

在宅医療センターは、平成7年から今までに500名余りの方々を訪問してきました。現在、当院において継続的な治療が必要で通院が困難な患者さん、約50名の方々を訪問し、在宅で療養される患者さんやご家族を支援しています。私たちは、入院中から主治医や病棟看護師、そして、地域医療連携系のソーシャルワーカーと連絡を取りながら、退院に向けて調整を行っています。「こんな状態で家に帰っても看られるか心配」、「何かあったときはどうしたらいいのか心配」などの不安な気持ちをもたれますが、少しでも軽減できるように24時間連絡の取れる体制をつくり、必要時には訪問させていただきます。

訪問診療では、外来や入院での医療と異なり、生活の実態も直接拝見させていただけるので、きめ細やかで個々人の生活に添った治療が行われています。

訪問看護では、日常生活が不自由になられた方の排泄、清潔の援助や療養生活を過ごす上での相談や服薬指導、家族指導などを行い、患者さんやご家族の意向に添った看護を実践しています。

悪性腫瘍であったり、感染症や老衰などで在宅で看取りをさせていただくケースがありますが、ご家族に見守られて最期の時を迎えられる姿は苦しみや悲しみ



訪問診療の様子

の中にも、何か心温まるものを感じることができます。

「先生が家に来て診てくれるから安心」「看護師さんの顔を見るとほっとする」「どうしていいか迷った時に相談に乗ってもらってよかった」などの言葉を耳にすると支えていることを実感し嬉しくなります。

これからの地域医療の在り方を考えたとき、それぞれの地域の特性を考慮し、地域全体で考える時代になってきています。地域住民のみなさんの要望を大切に、常に身近な存在でありたいと思います。



在宅医療センターのスタッフ



訪問車

DMAT 活動

DMAT (災害派遣医療チーム) 研修に参加して

平成 25 年 11 月 11 日に近畿管区警察局、京都府警主催による「平成 25 年度近畿管区広域緊急援助隊合同訓練」が京都府立丹波自然運動公園にて行われ、公立南丹病院 DMAT として、医師 1 名、研修医 1 名、看護師 2 名、ロジスティックス 3 名が参加しました。(臨床工学技士長 宅間 和秀)

私はこの度内科救急研修中に、南丹 DMAT 隊員の皆様と共に DMAT の訓練活動に参加させていただきました。医療物資やマンパワーの不足、また騒音や無線トラブルで隊員同士の意思疎通が困難になるなど、病院内ではまず想定しないような問題が次々と生じる中で、どれだけ冷静かつ正確に判断を下していくかが重要な鍵になっていくことを体感できたことはとても良い経験になったと思います。寒さと雨に見舞われ、かなり厳しい環境下での訓練でしたが、そんな中でも色々教えて下さった南丹 DMAT 隊員の方々に改めて感謝の意を示します。(研修医 米田 亜規子)



現場活動前に情報を提供・共有

救急部のご紹介

我々、医師・看護師より構成される救急部メンバーは平成 25 年 10 月よりユニフォームを紺色に統一して、24 時間救急医療に対応し、地域医療に貢献すべく頑張っています。

内科・小児科・産婦人科・外科系(外科、整形外科、呼吸器外科、小児外科、泌尿器科、脳神経外科、耳鼻咽喉科)の医師が交代制で担当しています。

平成 24 年度の救急患者受入れ数は、合計 15,018 名で、このうち救急入院となられた方は 2,264 名でした。



吸入薬について

薬剤部 やまうち あや 山内 花

空気が乾燥する季節になってきました。風邪やインフルエンザに罹っておられていませんか?寒い季節によく見られる薬が吸入薬です。喘息を治療・予防するだけでなく、インフルエンザの治療にも使われています。口で吸うタイプの薬であるため抵抗のある方もいらっしゃると思いますが、正しく使えば効果的な薬です。

■吸入薬は肺や気道に直接作用する薬です。そのため、飲み薬と違って薬が全身に作用することがほとんどなく副作用も少ないのが特徴です。また飲み薬に比べて少量の薬剤で効果を発現します。しかし、使い方を間違えると薬の効果が落ちてしまいます。吸入薬と一口にいっても様々な種類があります。それぞれの使用方法が分からなければ薬剤師にご相談下さい。

■薬の種類

- ・長期管理薬：(喘息、慢性閉塞性肺疾患) 毎日使い続けることで発作を予防し効果を発揮する吸入薬です。症状がなくても使い続けるようにしましょう。
- ・発作治療薬：発作時に使用する吸入薬で、気管支を広げて呼吸を楽にする効果があります。
- ・その他：インフルエンザの治療薬として使われるイナビル[®]、リレンザ[®]も吸入薬のひとつです。

■うがいをしてください

吸入後(喘息、慢性閉塞性肺疾患薬)は、口の中に薬が残りやすく、そのままにしておくと声がかれたり口腔内カンジダ(カビの一種)ができやすくなるため、必ずうがいをするよう習慣づけましょう。うがいができない場合には飲み物を飲むだけでも効果的です。



専門資格を持った看護師

JAA認定アロマコーディネーター・アロマイストラクター おかもと みき 岡本 美紀

私がアロマセラピーと出会ったのはこの南丹病院に就職して間がない頃でした。その当時は血液内科で勤務させていただいていました。抗がん剤治療とその副作用に心身が掛けそうになっていた患者さんに「私ね、アロマトリートメント受けに行きたい。アロマが好きな。患者だって綺麗になりたいと思っているのよ。アロマセラピーの出来る看護師さんになってほしい」と言われたことがきっかけでした。「患者だって…」とても衝撃的な言葉でしたがこの時、私に出来ることならアロマセラピーを学びました。今はアロマセラピスト、アロマコーディネーターとして在宅や施設などでボランティア活動（アロマトリートメント）をさせていただいています。

まだまだ、日本ではアロマセラピーが医療現場では一般的ではないのが現状ですが、近年「タクティールケア」という緩和療法が日本でも聞かれるようになり、看護学校でもこのタクティールケアの学びが取り入れられてきています。タクティールケアとは「触れる」という意味のラテン語「タクティリス」に由来し、1960年スウェーデンの看護師が未熟児の体に触れることで体温が安定し、体重も増えることに気づいて広まった看護（ケア）だそうです。身近な表現で言えば、幼い頃「痛い痛いのとんでけー。」と撫でてもらった記憶が皆様にもあると思います。撫でてもらうことによって不思議と安心感が得られ、痛みが緩和されていきます。医療におけるアロマセラピーとは精油の持つ薬理作用（芳香成分）とこのタクティールケアを活かして、患者さんの苦痛や治療に対する不安が少しでも軽減できるように努めていくことだと思っています。また、病棟で焚くアロマセラピーは看護師の疲れを癒し、ストレスの緩和に役立てられればと思っています。



南丹船井自衛消防連絡協議会 消火訓練大会 W入賞!!

この大会は、南丹船井自衛消防連絡協議会が会員事業所を対象に日頃鍛錬した消火技能を披露し、より高度な消火技術の修得に努めることを目的に毎年行われています。当院からは消火器操法の部にAチーム（石野陽一・今井基貴）、Bチーム（法貴正光・竹瀬潤）の2組が出場しました。結果は、AコースでAチームが最優秀賞、BコースでBチームが優秀賞とダブル入賞を果たしました。



消火器操法の採点中



左から石野・今井・法貴・竹瀬

近隣の連携医療機関の先生方

山田医院 やまだ ともひろ 山田 智裕

南丹市八木町で内科を開業して10年目になります。開業当初は暇な日も多く危うくイチローマニアになるところでしたが、徐々に仕事も増えメジャーリーグ中継も見ることがなくなりました。



最近では診療以外の仕事も多く、地味に忙しい日々を送っております。

南丹病院の皆様には、検査に手術、入院など様々な面で大変お世話になり、感謝しております。

私も昭和63年より15年間南丹病院で仕事をさせていただいておりましたので忙しいことは十分承知しておりますが、今後も引き続きよろしくお願いいたします。

また、昨今高齢化が進み人口も減少している南丹市ですが、その中でも南丹病院は数多くの従業員を抱える一大事業所であり、南丹市の希望の星と言えます。私も一南丹市民として、また一開業医として、南丹病院の繁栄を心より祈願いたします。



さとう医院 さとう ゆずる 佐藤 譲



南丹病院の梶田院長先生及び各科の先生方はじめ、コメディカル・パラメディカルの職員の方々には、常々大変なお世話を頂き、またご迷惑をおかけしておりますことを、この機会に深く感謝いたします。

8年間の明治鍼灸大学（現・明治国際医療大学）在職中に、通勤途中に何となく縁の感じられた亀岡市千代川町の地に開業することを決意し、ゼネラルプラクティショナー（内科系外科系総合医）を標榜して地域医療に携わるようになって13年余りになりますが、お陰様で日々の仕事内容でもこれといったトラブルもなく、無事開業医としての責任と義務を果たさせていただいております。

日常診療において、重症・難病・緊急事態などの問題のある患者さんにしばしば遭遇することがありますが、南丹病院との病診連携によって、患者さんに安全で高度な医療を受けていただく事ができますことは誠に心強く、私にとっては何よりの安心となっております。

現在当院では4人の医師（交代制）によって、外来診療及び在宅支援診療所として在宅患者さんの往診を行っております。折しも世代交代の時期に入っており、当院の若い世代の医師たちは疾病の早期発見をめざして内視鏡検査や腹部超音波検査などに微力ながら力を注いでおりますので、地域の中核病院である南丹病院にお世話になる機会がますます増えることと思います。今後とも、どうかよろしくお願いいたします。

病院ボランティア

病院ボランティアさん活躍中！ お世話になっています。

看護師長 ^{ひらい くみこ} 平井 久美子

現在、当院では10名の病院ボランティアの方々に活躍いただいています。グリーンのエプロンがボランティアさんの目印です。

病院玄関受付では、外来にいられた患者さんの受診手続きのお手伝いや、案内をしていただいています。

中央材料室では、衛生材料及びリネン類の補修整備をしていただいています。患者さんとのかわりはない場所ですが、なくてはならない存在です。

整形外科前の廊下や、4階東病棟の廊下には、写真ボランティアさんによる写真が展示されています。四季おりおりの風景が、患者さまだけでなく私たちスタッフの心も癒してくれています。

病院の正面駐車場入口付近には、園芸ボランティアさんによるお花のプランターが並んでおり、来院される患者さんをお迎えしています。

一緒に活動していただける方を募集しています。みなさん、少しの時間とやさしい心を私たちに貸していただけませんか…。



病院ボランティア募集中

▶ お手伝いいただきたい内容 ◀

- ・ 受診手続きや病院内の案内
- ・ 中央材料室でのお手伝い
- ・ 花壇、プランターへの花植えや水やり
- ・ 入院患者さんのお話相手 など

▶ お手伝いいただく時間帯 ◀

- ・ 平日（月～金）
9時～17時で都合のつく時間

《問い合わせ先》

公立南丹病院 総務課 0771-42-2510（代）

平成25年度 第3回緩和ケア講演会

心のケアのスペシャリストである宝塚市立病院緩和ケア病棟チャプレン・カウンセラーの沼野尚美氏を講師に迎え、下記の通り緩和ケア講演会を開催致します。

生きることについて、一緒に考えてみませんか。



演 題：「共に支え、共に生きる」

講 師：宝塚市立病院 緩和ケア病棟チャプレン・カウンセラー 沼野 尚美 氏

日 時：平成26年1月18日（土）14:00～16:00

会 場：ギャラリー亀岡 2階 大広間

対 象：地域住民、医療・保健・福祉従事者

定 員：先着150名

参 加 費：無 料

申込方法：お電話でお申し込みください。

締め切り：平成26年1月10日（金）

主 催：公立南丹病院（京都府がん診療連携病院）

共 催：京都府南丹保健所・船井医師会・

亀岡市医師会・京都府看護協会口丹地区

お問い合わせ：公立南丹病院 地域医療連携係 担当 今西
電話：0771-42-2510（代）

看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

● 院内保育所が正職員・臨時職員共に利用可

● 寮(正職員のみ)利用可：月額10,300円

〒629-0197

京都府南丹市八木町八木上野25番地

公立南丹病院 総務課人事係

TEL 0771-42-2510（代）

〈お気軽に上記までお問い合わせ下さい。〉



詳しくは公立南丹病院ホームページをご覧ください。 <http://www.nantanhosp.or.jp>

編集後記

明けまして、おめでとうございます。
皆様はどんな新年をお迎えでしょう。
昨年は自然災害の怖さを経験しましたが、今年
は自然の恩恵が有り難いと感じられる年であ
りたいと願っています。四季折々が美しい日
本、寒い冬もこたつにミカンと何か楽しみを
持って過ごしたいと思います。

広報委員 M.M

